

第45回東京モーターショー 2017開催

EV、自動運転、AIが焦点に

第45回東京モーターショー2017が10月27日～11月5日までの10日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催され、延べ771,200人が訪れ盛況のうちに幕を閉じました。

今回のモーターショーで自動車メーカー各社はEV、自動運転、AIの3分野について力を入れる姿勢を強く示しています。とは言えその内容は、いささか具体性に欠いていたと言わざるを得ません。EVはコンセプトモデルが多く、量産車を市場投入しているメーカーは少数でした。各メーカーが本格的な市場投入を開始するまでには、今少し時間を要するでしょう。また、自動運転技術はセンサーやその制御方法についての開発は活発でしたが、車車間通信や道路と車両の通信のように、どのような仕様とするのか、未確定な部分が少なくありませんでした。AI技術に至っては実装された実績がなく、活用方法もまだまだこれから検討が必要な分野と言えるでしょう。

ショーの展示内容の中から、我々カーアフターマーケットに今後大きな影響を与えそうな事柄を紹介します。

■商用車のバンパー類は分割式が流行か
トヨタ・JPN TAXI（ジャパントクシー）、

ダイハツ・ハイゼットのマイナーチェンジ予定モデルで見られた構造ですが、バンパーが左右端部と中央で3つに分かれるようになっています。

これは、修理事例でバンパーの左右端を傷めることが多いためです。分割できるようにしておくことで部分交換が可能になり、修理費が削減できます。

この構造はメーカーにとっては部品の在庫点数の増加や、組み立て時の作業量増加などの負担があるため、近年は積極的に考えられてきませんでした。商用車の商品力は運用コスト面までが競争要素の一つとしてとらえられ始めています。

■ヘッドランプレンズが取替可能に

トヨタ、ダイハツの一部車種ではヘッドランプレンズ（透明な殻の部分）とハウジング（光源やリフレクターを固定している部分）が取り外せる車種が増えていきます。

これまでと違ってシーラーを熱して取り外すものではなく、ガスケットを付け替える方式に変更され、ヘッドランプレンズ取替時の作業性が向上しています。

光源がLEDやレーザーのような高価なものに変わっているなか、ヘッドランプの価格は上昇傾向にあります。ヘッドランプレ



ンズのための交換が普及すれば、事故時の修理費用低減が期待できます。今後、採用車種の拡大が予想されます。

■リンクレスワイパー

ホンダ・クラリティ PHEVのフロントワイパーはワイパーモーターを片側に1基ずつ積んだリンクレス式になっています。片側ずつ独立して動かせるので、鳥糞などで片側だけ視界が悪くなった際に便利な装備です。

また、ウォッシャーノズルがワイパーアーム側に上下に分かれてついています。これによってワイパー軌道が往路の時は上側から、復路では下側からウォッシャー液を出すことができます。必要な側だけに噴射できるので、無駄がありません。

リンクレスワイパーはモーターが初期位置を記憶しています。これはアームがリンクでつながっていない構造上、手動で任意の位置にワイパーを動かせるためです。同車のようにワイパーの運行がバタフライ式の場合、左右で上下位置を反対にすると、ワイパーを動かした際に絡んでしまいます。

ワイパーモーターを交換したり、取り外した際には初期位置の再学習が必要になります。



バンパーが3分割になった、JPN TAXIとハイゼット



クラリティ PHEVに搭載されたダイレクトドライブワイパーステム

2017年度は需要・保有ともに 堅調な推移を見込むも将来的には 少子高齢化などの影響による市場縮小を懸念

日本自動車販売協会連合会はこのほど、「自動車ディーラービジョン2017年版乗用車店編」を発行しました。

同書は自動車販売業における中長期市場の見通しや、IoT、ICT（情報処理・通信関連技術）進展に伴う業界構造の変化、ディーラーの経営改革などに関する考察をまとめたものです。その中から、市場動向及び今後の見通しについて紹介します。

■市場動向

月次の需要台数を見ると、登録車が2016年後半から上昇傾向を見せており、軽自動車も回復基調にあります。現代文化研究所のインターネット調査によると、2016年度に自動車を購入したユーザーでは、全体と比較して「魅力的なモデルが販売された」という購入動機が多く、モデル要因の影響が大きかったと見られます。

保有車を購入した際に重視した点については、2009年以降の新車購入者で燃費重視が大きなトレンドとなってきましたが、2013年度から安全性を高めるための機能を重視する傾向が強まり、特に2016年度の購入者で顕著となっています。また、次に購入する車に対する安全性重視は年齢層が高まるほど強まる傾向にありました。

■新車需要の動向と見通し

2016年度は海外経済の持ち直しによる堅調な輸出の増加と、底堅い個人消費、設備投資に支えられ、景気は緩やかな持ち直しが見られました。2017年度も引き続き緩やかな景気回復基調が継続すると見込まれます。2018年度についても景気回復基調は続くと考えられますが、東京オリンピックに向けたインフラ整備が盛り上がるものの追加の経済対策の見込みがないことや、2017年度と同様、所得改善の緩慢から個人消費の伸び悩みも予想されます。

これらの動向を踏まえ、2017年度の新車需要台数は総市場で510万台（前回見通し+15万台）、登録車が330万台、軽自動車180万台（軽比率35.3%）を見込んでいます。また2018年度は総市場で505万台、登録車で325万台、軽自動車

で180万台と予想しています。

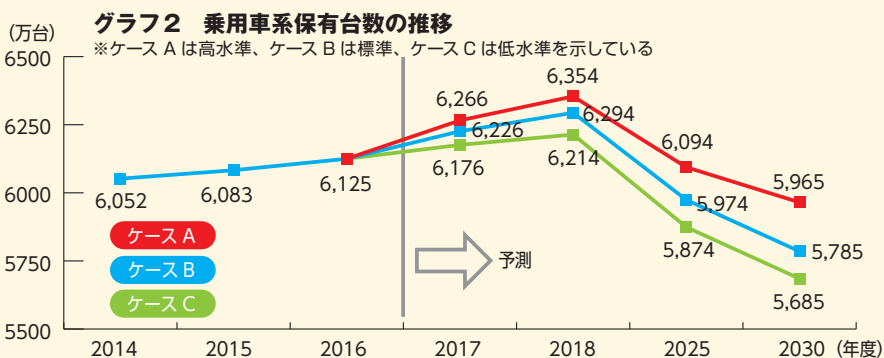
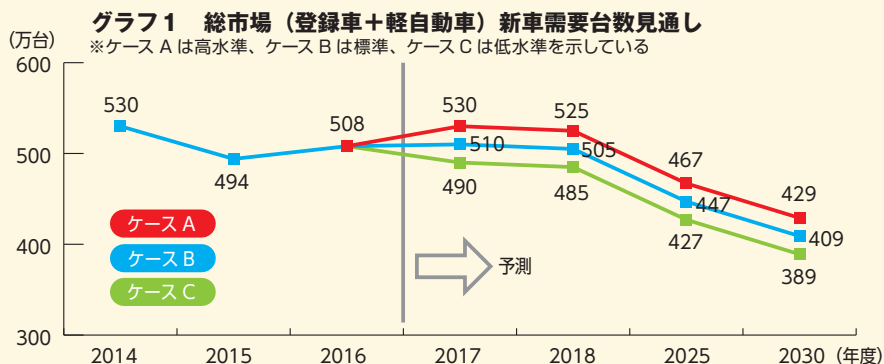
今後東京オリンピック後の景気の伸び悩みや、車への関心が低い世代が車購入の中心である40、50歳代に突入することから、2025年度の新車総需要は447万台と見込んでいます。さらに2030年度には、団塊世代がすべて80歳を超え母体縮小が進むことで、409万台と予想しています（グラフ1）。

■保有台数の見通し

2016年度の乗用車の保有台数は、6,125万台と前年度末から42万台増加しました。今後は安全装備などの付加価値商

品へのニーズが高まり、買い替えが促進されるとともに、安全性の向上によって高齢者の保有中止が緩和されるなど、底堅い推移が続くと見込まれます。

中長期的には人口減少に加えて2019年度をピークに世帯数も減少に転じ、世帯人員数の減少基調も続くこと、高齢者世帯、特に高齢者単独世帯の増加が見込まれること、さらに車保有への意識が異なる世代の台頭もあり、2025年度の乗用車系保有台数は5,974万台に、2030年度は5,785万台まで低下すると予想されています（グラフ2）。



NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

平成29年10月：**3,129t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

平成29年10月：**6.8t**

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む115品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

日整連、第21回全日本自動車整備技能競技大会を開催

日頃の業務で培った、知識と技術を競う

日本自動車整備振興会連合会（橋本一豊会長、日整連）は11月25日、東京ビッグサイト（東京都江東区）において第21回全日本自動車整備技能競技大会を開催しました。

同大会は自動車整備士の技能向上や交流を深めるとともに、整備事業の公共性及び技能錬磨の姿勢を広く社会に示すことを目的としたもので、2年に1度開催されています。

全国の整備振興会から53チームが参加し、2人1チームで1年定期点検整備をベースにした点検整備と故障診断を実施する「実車競技」（配点700点）、車両点検に関する一般的な技能を問う「基礎競技」（配点100点）、カーオーナーへの問診や対応、整備内容などの説明についてロールプレイング形式で行う「アドバイザー競技」（配点200点）に臨み、3種目の合計得点で競

われました。

課題には日産・ノート（E12系）のガソリン車が用いられ、エンジンのアイドリング不調、助手席側パワーウィンドウボタン作動不良、ライセンスプレートランプ灯火不良などの不具合原因の特定と修理、フロントバンパーへの赤色リフレクター貼り付けなど保安基準不適合箇所への対応力が問われました。

競技の結果、栃木県自動車整備振興会チームが1,000点満点中、989点のハイスコアで優勝しています。平均点も832.8点と前回の778点を50点上回るハイレベルな戦いになりました。

上位3チームの選手と得点は次の通りです。

優勝：栃木県・塩田雄基氏（（有）塩田モータース商会）、須永圭則氏（（有）塩田モ

ータース商会）989点

準優勝：秋田県・木元崇文氏（（有）木元自動車興業）、伝農善樹氏（（有）中仙オート）976点

3位：山形県・星川貴彦氏（星川自動車）、大貫竜氏（サービスエリア357五兵衛）971点



橋本一豊会長より優勝旗を授与される栃木県チーム



競技の様子

NGP組合員 かわら版

多田自動車商会、「三木金物まつり2017」に出展 廃車王サービスや リサイクル部品の利用を訴求

兵庫県三木市が主催する「三木金物まつり2017」が11月4・5日、同市役所前で開催されました。同イベントは包丁など金物の展示販売だけではなく、各種物品の販売や飲食ブース、音楽イベントなど多くの催しを展開するもので、今年は16万2千人もの来場者が訪れています。

NGP組合員である（株）多田自動車商会（兵庫県三木市）は、同イベントに

毎年出展しています。同社ブースでは、用意したオリジナルの廃車王グッズやバッグ、マグネット、ティッシュを5,820セット配布するなど、訪れた人に廃車王のサービスやリサイクル部品の品質及び環境性能を紹介しました。また、毎年来場者に好評のエンブレム販売を今年も実施し、それらを含むすべての売上金を神戸交通遺児見守る会へ寄付しています。



NGP組合員 かわら版

第46回初期指導研修会を開催

まこと商会在NGPの正会員へ



第46回初期指導研修会が10月16～18日の3日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催されました。

（有）まこと商会（熊本県八代市）の村田眞一郎社長と同社スタッフ2名が参

加した同研修会の開講式には、佐藤幸雄理事長、小林信夫副理事長、青木金也副理事長、金子治樹理事が出席し、新たに正会員となるメンバーへ向けて、自身の経験を踏まえたアドバイスや激励の言葉を送りました。

その後、NGP協同組合の沿革や理念、組織について説明や、売り上げ目標の立て方、業務についての講習を受けるとともに、全組合員が品質を統一することの意味と重要性を学んでいます。

第32回中級研修会を開催

業務改善提案やコミュニケーション方法から自動車メカニズムまで、幅広い知識・能力を習得



第32回中級研修会が11月6～10日の5日間、（株）あいおいニッセイ同和自動車研究所・東富士センター（静岡県裾野市）にて開催されました。

生産・フロントの2部門から計21名が参加した同研修会では、部門ごとの専門講義や事業計画及び業務改善案の策定方法、部下とのコミュニケーションなどについて演習を交えて学び、マネジメントやリーダーシップについての見識を

深めました。さらに実車を用いた技術研修では、エアコン及びエンジンの診断、オートマチックトランスミッションの構造及び点検方法、ハイブリッドシステムの仕組みなどについて習得しています。

研修後、（株）大橋商店の高橋良太郎さんは「会社の業績を上げられるように、問題点、改善点を見つけて、それらを改善していきます」と、今後の業務に向けた決意を表明しています。（株）永田ブ

ロダクツの佐藤匠さんは「研修を受けて、これからは自分たちがリーダーであるということを実感することができました。これから部下ができたときには、学んだことを実践し、部下に信頼されるようになりたいです」と、研修を受けたことで自らの意識が変わったことを実感しています。

新規入会組合員紹介

支部	九州
会社名	有限会社まこと商会
代表者	代表取締役 村田 眞一郎
住所	熊本県八代市新開町3-86
電話番号	0965-37-1371
FAX番号	0965-31-3001
加入日	29年10月31日



10月16日、17日、18日の3日間、初期指導研修を3名で受講しました。当社も長い間リサイクル部品の流通に携わるなかで様々な局面に直面し、その度に頭を抱えて乗り越えてきたつもりでいました。しかし今後の先行きに関しては不安を抱えておりました。この度、部品販売のみならず車両入庫、人材の育成に至るまで先輩方の力をお借りすることで、より成長していきたいと考え、NGPへの入会を決心致しました。先輩方と同じ土俵で部品流通をすることは簡単ではございませんが、NGPの基本理念を胸に、高品質な商品の販売に向けて全社を挙げてがんばっていききたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
南関東	ユーパーツ練馬店	社名変更 移転	ユーパーツ東京支店 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-21-16 高田馬場EKKビル5階 TEL03-6380-3401 FAX03-6380-3402	29年11月1日

慶祝



（株）3R（埼玉県久喜市）の遠藤一人執行役員が峯川あずさ様とご結婚されました。11月5日にさいたま市内の式場で披露宴を行いました。お2人の末永いお幸せを心よりお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>